

## 第 14 回日中韓財務大臣・中央銀行総裁会議

### 共同ステートメント（ポイント）

【2015 年 5 月 3 日 アゼルバイジャン・バクー】

1. 日本、中国、韓国の財務大臣・中央銀行総裁は、麻生太郎副総理兼財務大臣兼金融担当大臣の議長の下、アゼルバイジャン・バクーにおいて、第 14 回日中韓財務大臣・中央銀行総裁会議を開催し、最近の世界経済の状況や地域金融協力の進展について意見交換した。
2. 我々は、世界全体の成長は緩やかなままであり、一様でない道筋をたどっていることを認識する。この文脈において、我々は、需要を拡大することに資する、適時かつ効果的なマクロ経済政策の実施を継続することにコミットしている。潜在成長力を高めるための構造改革は、持続可能かつ均衡のとれた成長のため、引き続き高い優先順位にあるべきである。
3. 我々はまた、世界経済が不確実な環境においては、金融政策の在り方は、負の波及効果を最小化するために、注意深く測定され、明確にコミュニケーションが行われるべきだと認識する。資本フローの変動から生じ得るマクロ経済と金融安定のリスクに対処する際に必要なマクロ経済政策の調整は、マクロ・プルーデンス政策により支えられ得る。

4. 我々は、地域金融協力を強化することにコミットしている。  
ASEAN+3 マクロ経済リサーチ・オフィス（AMRO）の国際機関化に向けた進捗を歓迎。昨年 10 月に AMRO を国際機関化するための設立協定（AMRO 設立協定）の署名が完了したことは大きな前進であった。我々は AMRO 設立協定の迅速な発効に向けて、必要な国内手続きを引き続き進めていくコミットメントを再確認した。
5. 我々は、チェンマイ・イニシアティブ（CMIM）、AMRO、アジア債券市場育成イニシアティブ（ABMI）の強化を含む ASEAN+3 地域金融協力について、午後の議論にて具体的な成果を見ることを期待する。また、2015 年 ASEAN+3 財務大臣・中央銀行総裁会議の共同議長としての韓国、マレーシアのリーダーシップを多とする。
6. 我々は、日中韓財務大臣・中央銀行総裁会議が、政策対話と調整のための効果的な場として役割を果たすと確信し、2016 年 5 月にドイツ・フランクフルトにおいて再会することを決めた。